

開講

3講座合同
シンポジウム

YESニュース

夏期特別
企画取材

特集

第4号 発行日：2006年8月31日

8.26 三講座合同シンポジウム開催で情報(後半)・学校図書館・学び環境がスタート

環境は学びを変える?! 「環境と人の一体しつらえ」に外の人材活用を



8月19日、国語科講座は初の学校現場で

第四回目の国語科講座は川崎市の教員も合流し、講座として初めて現場を舞台に実施。岸谷小学校の5年生を対象に笠原先生の授業実践を参観。その後参加者による研究協議が展開されました。「心をこめて子ども一人ひとりの胸に響くようないい話。」「聞くことで子どもたちの心が耕される。」これが長年実践された先生の「教師の肉声短話」。その授業を直に参観することがついに実現できたのです。授業は先生自身の少年時代に目撃した実話から始まり、その先生



の話に子どもたちが自分なりの「題をつけていく」という進行。印象に残った言葉、場面状況を四字熟語に、場面から自分の願いを表現。題名は十人十色と様々にはじける。自分とは違った見方感じ方を聴きあうおもしろさや子どもたちが発した言葉を焦点化し、新たな言葉の獲得へとぐいぐいと展開していく。終了後の研究協議では、子どもに意識させたい言葉をあちこちに仕掛けた実話の構成にみんなが注目。自前の授



業案づくりこそ教師の勝負所と先生の檄が飛ぶ。先生が自費出版した「教師の実践短話集～良い聞き手が育ついい話」も紹介された。「教師こそ言葉環境」…これがずしりと重い収穫。熱気の中の寿司屋での交流会と名物キリンビレッジでビールのハシゴ。気持ちも新たに休み明けを迎えられそうです。

8月26日、「校内情報化推進」・「学校図書館教育」・「学びの環境」の3講座が合同して18年度講座のオープニングイベント(情報講座は後半がスタート)。「今、学校に問われる教育環境～図書館・PC・ネットワーク・教室の明日をデザインする」と題し、技能文化会館ホールに60名参加して開催されました。3講座の運営委員による講座プログラムの説明や3講座渡り受講ができる「スポット券」の購入呼びかけなど行われた後、「学びを変える環境・インフラへ」をテーマにパネルディスカッション。3人のパネラーが横浜の学校現場に対する熱い想いや励ましを語ってくださいました。対崎奈美子先生(全国学校図書館協議会)は、最近調査されたカナダの学校図書館の明るく楽しく子どもに密着したしつらえをスライドで紹介しながら、「癒し空間として、また自分を発揮できる場としての学校図書館を追究する課題」を提起され、「校務分掌で分断されている図書と情報を一体メディアとして運営する学校図書館づくり」を訴えられました。吉村彰先生(東京電機大教授)からは、公民館・図書館・小学校の複合建築を設計した意図をスライドで披瀝されながら「環境と人を一体化する学びの環境づく

りの視点」から、「大量退職する団塊世代をうまく使い、社会のノウハウを生かした横浜型の学校リニューアルモデルを期待する」と強調されました。額田順二先生(横国大教授・情報講座講師)からは、全国最低水準にある神奈川の学校IT化を支援するネットデイの役割に触れ、「まず教師が授業と校務に活用できるようになり、子ども全員がPCを持ち活用する発展を目標化する。」そのために「校内では縦割りを糾合。校外とは大都市横浜ならではの豊富な人材導入の視点が重要。」また「保護者への社会教育。教師には指導と評価の一体化だけでなく評価と処遇の一体化を切り開いていく時代をどうデザインするのか課題だ」と訴えられました。3氏はともに、学びを支えるインフラ環境の重要性とそれへの積極的係わりを学校現場から作り出してほしいと、3講座に熱い期待を寄せられました。

<夏の特別企画は社会科講座でも>

8月12日、社会科初の「アウトドア講座」を実施。題して「横浜の東海道～幕末の横浜を彩った人々、ヘボン・ジェラルドを中心として」の一日バスツアー。生麦事件・神奈川台場・元町貝塚など8カ所巡り。講師は中村隆先生でした。